

第8回 ロボット大賞 事業報告書

平成31年2月12日

【共催】経済産業省(幹事)、(一社)日本機械工業連合会(幹事)
総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省



本事業は競輪の補助により
運営されています。



「第8回 ロボット大賞」概要

【名称】

日本名：第8回 ロボット大賞

英語名：The 8th Robot Award

【共催】

経済産業省(幹事)、日本機械工業連合会(幹事)

総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

【協力】

(独)中小企業基盤整備機構、(国研)科学技術振興機構、(国研)産業技術総合研究所、
(国研)情報通信研究機構、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構、
(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所、(国研)水産研究・教育機構、(国研)日本医療研究開発機構、
(国研)農業・食品産業技術総合研究機構、(公社)計測自動制御学会、(公社)自動車技術会、
(公社)精密工学会、(公社)日本食品科学工学会、(公社)日本船舶海洋工学会、
(公社)日本べんとう振興協会、(公社)日本リハビリテーション医学会、(公財)テクノエイド協会、
(公財)医療機器センター、(一社) i-RooBO Network Forum、(一社)映像情報メディア学会、
(一社)再生医療イノベーションフォーラム、(一社)人工知能学会、(一社)電子情報通信学会
(一社)日本医療機器産業連合会、(一社)日本機械学会、(一社)日本建設機械施工協会、
(一社)日本義肢装具学会、(一社)日本原子力学会、(一社)日本建設機械工業会、(一社)日本航空宇宙学会、
(一社)日本コンピュータ外科学会、(一社)日本産業車両協会、(一社)日本食品機械工業会、
(一社)日本人間工学会、(一社)日本農業機械化協会、(一社)日本農業機械工業会、
(一社)日本包装機械工業会、(一社)日本UAS産業振興協議会、(一社)日本リハビリテーション工学協会、
(一社)日本ロボット学会、(一社)日本ロボット外科学会、(一社)日本ロボット工業会、
(一社)ライフサポート学会、(一社)林業機械化協会、(一社)日本生活支援工学会、
(一社)日本計量機器工業連合会、(一社)日本工作機械工業会、(一社)日本産業機械工業会、
(一社)日本自動車工業会、(一社)日本電機工業会、(一社)日本電気制御機器工業会、
(一社)日本食品工学会、(一社)日本福祉用具・生活支援用具協会、(一財)橋梁調査会、
(一財)先端建設技術センター、(福)全国社会福祉協議会、(特非)国際レスキューシステム研究機構、
建設無人化施工協会、農業食料工学会、ロボット革命イニシアティブ協議会

※順不同

【目的】

情報技術、エレクトロニクス、機械工学、素材技術など我が国産業の強みと言える幅広い要素技術を統合することによって生み出される次世代のロボット技術(RT)は、我が国に科学技術の更なる発展をもたらすとともに、ものづくり分野はもとより、サービス分野、介護・医療分野、インフラ・災害対応・建設分野、農林水産業・食品産業分野などの幅広い分野における利活用が進むことにより、生産性の飛躍的向上、単純な繰り返し作業や過重な労働等からの解放、急速な少子高齢化が引き起こす労働力不足の解消や、安全・安心な社会の実現に貢献すると期待される。

このため、将来の市場創出への貢献度や期待度が高いと考えられるロボット及びロボット応用システム並びにロボットに関連するビジネス・社会実装、要素技術、研究開発、人材育成(以下、「ロボット等」という。)を表彰することにより、ロボット技術の開発と事業化を促進し、技術革新と用途拡大を加速する、社会に役立つロボットに対する国民の認知度を高め、ロボットの需要を喚起するとともに、全国から広く募ることで我が国のロボット技術の動向を把握することを目的とする。



「ロボット大賞」
ロゴマーク



「第8回 ロボット大賞」概要

【募集対象】

おおむね3年以内に日本国内で活躍した又は取り組まれたすべてのロボット等のうち、以下の部門及び分野に属し、かつ有識者で構成される審査を目的とした委員会において当該ロボット等を十分に審査する機会を与え得るものを募集対象とする。

ただし、中小システムインテグレーターによるロボットを中核としたシステム構築例は、おおむね5年以内に運用されたものとする。

なお、本制度においては、「ロボット」を「センサ、知能・制御系、駆動系の3つの技術要素を有する知能化した機械システム」と広く定義する。

【募集部門】

(A) ビジネス・社会実装部門

ロボットに関連するビジネスモデル又は各分野における社会実装に向けた取組

(B) ロボット応用システム部門

実用に供しているロボット技術を応用したシステム又はシステムインテグレーション

(C) ロボット部門

実用に供しているロボット本体

(D) 要素技術部門

ロボットの一部を構成する部品、材料又はソフトウェア若しくはロボットが利用する共通基盤(通信ネットワーク等)その他のロボットの要素技術

(E) 研究開発部門

ロボットに関連する特に将来性のある研究開発の成果

(F) 人材育成部門

ロボット分野における人材を育成するための取組又は教材等

【募集分野】

- ① ものづくり分野
- ② サービス分野
- ③ 介護・医療分野
- ④ インフラ・災害対応・建設分野
- ⑤ 農林水産業・食品産業分野

※中小企業・ベンチャーの定義

中小企業基本法第2条第1項の規定に基づく中小企業者(下記 i ~ iv を参照)をいう。ただし、大企業の子会社等(発行株式総数若しくは出資金額の1/2以上が同一の大企業、又は、発行株式総数若しくは出資金額の2/3以上が複数の大企業の所有に属している法人)は含まない。

- i. 製造業・建設業・運輸業その他の業種:「資本金3億円以下」又は「常時雇用する従業員300人以下」
- ii. 卸売業:「資本金1億円以下」又は「常時雇用する従業員100人以下」
- iii. サービス業:「資本金5000万円以下」又は「常時雇用する従業員100人以下」
- iv. 小売業:「資本金5000万円以下」又は「常時雇用する従業員50人以下」



「第8回 ロボット大賞」概要

【表彰位/審査の観点】

●大臣賞

それぞれの大臣が行う政策上の観点から、最も優秀であると認められるロボット等に対して各大臣賞を交付する。

- －経済産業大臣賞
- －総務大臣賞
- －文部科学大臣賞
- －厚生労働大臣賞
- －農林水産大臣賞
- －国土交通大臣賞

●中小・ベンチャー企業賞(中小企業庁長官賞)

中小企業及びベンチャーからの応募のうち特に優秀であると認められるロボット等に対して中小企業庁長官賞を交付する。

●日本機械工業連合会会長賞

ロボット産業の振興において特に優れたロボット等に対して日本機械工業連合会会長賞を交付する。

●優秀賞(○○部門)、優秀賞(△△分野)

各部門・各分野において特に優秀であると認められるロボット等に対して優秀賞を交付する。

●審査員特別賞

上記の他に、表彰に値するロボット等に審査員特別賞を交付することができる。

【審査の観点】

(A)ビジネス・社会実装部門

①社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボットの活用による、新たなビジネスやサービスの創出、生産性の向上や労働環境の改善等の社会的課題への対応、新たなビジネスモデルやそのアイデア等によるマーケットやニーズの発掘等の、社会的ニーズの観点から評価する。

②先進性・独自性

それぞれの分野におけるロボットの活用、ロボットに関連するビジネスとしての新規性や、活用されるロボットやそのシステムインテグレーションの技術的な先進性・独自性等の観点から評価する。

③ユーザー視点

それぞれの分野におけるロボットの活用によって、その利用者が受ける利益や効用等の、ユーザーとしての視点から評価する。

④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(B)ロボット応用システム部門

①社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボット応用システムのメリット及びニーズの大きさ、これまでの導入・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。



「第8回 ロボット大賞」概要

【審査の観点(続き)】

②先進性・独自性

それぞれの分野におけるロボット応用システムの新規性や、システムインテグレーションの技術的な先進性・独自性等の観点から評価する。

③ユーザー視点

ロボット応用システムの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての視点から評価する。

④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(C)ロボット部門

①社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボット活用のメリット及びニーズの大きさ、これまでの導入・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

②先進性・独自性

ロボットの機能や性能(速さ、精度、安全性、動作安定性、動作環境の汎用性や操作性等)又はそれらを実現する技術の、先進性や独自性の観点から評価する。

③ユーザー視点

ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)、共通規格への対応、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての視点から評価する。

④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(D)要素技術部門

①社会的ニーズ

それぞれの分野において活用されるロボットへの実装のメリット及びニーズの大きさ、これまでの実装・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

②先進性・独自性

ロボットの機能や性能(ロボットの速さ、精度、安全性、動作安定性、動作環境の汎用性や操作性等)を実現する要素技術としての先進性や独自性の観点から評価する。

③ユーザー視点

ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)等の向上への寄与や、ロボットに実装するときの容易性や共通規格への対応等の、ユーザーとしての視点から評価する。

④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績等)を評価する。



「第8回 ロボット大賞」概要

【審査の観点(続き)】

(E) 研究開発部門

①社会的ニーズ

研究開発の成果が、ロボットやその要素技術として実用化されることによる、それぞれの分野における新たなビジネスやサービスの創出、生産性の向上や労働環境の改善等の社会的課題への対応、将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

②先進性・独自性

研究開発の成果としての先進性、独自性の観点から評価する。

③ユーザー視点

研究開発の成果として、ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)等の向上への寄与や、要素技術としてロボットに実装するときの容易性や共通規格への対応等への寄与等の、ユーザーとしての視点から評価する。

④その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(F) 人材育成部門

①社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボットの活用や、ロボットに関連する新たなビジネスやサービスの創出、ロボットやその要素技術の研究開発を担う人材等のロボット分野において活躍する人材の育成への貢献の観点から評価する。

②先進性・独自性

人材育成の方法としての先進性、独自性の観点から評価する。

③ユーザー視点

ロボット分野において活躍したい人材にとって、必要な知識や経験、技能等を効果的かつ効率的に習得できるしくみとなっているか等の、ユーザーとしての視点から評価する。

【審査の方法】

以下のとおり、有識者で構成される委員会による選考を経て、受賞者の決定を行う。

(1) 一次審査(書類審査)

書類と映像による審査を行い、二次審査の対象とするものを選出する。

(2) 二次審査(現地調査およびプレゼンテーションに基づく審査)

一次審査を通過したロボット等について、「現地調査」を行うとともに「プレゼンテーションおよび審査員との質疑応答」を行い、それらの内容を踏まえ、各賞の表彰対象とすべきロボット等を選考する。



「第8回 ロボット大賞」概要

【募集方法】「第8回 ロボット大賞」公式ホームページにて応募エントリー後、応募用紙をダウンロードして必要事項を記入。応募用紙と動作確認用の映像資料を郵送。

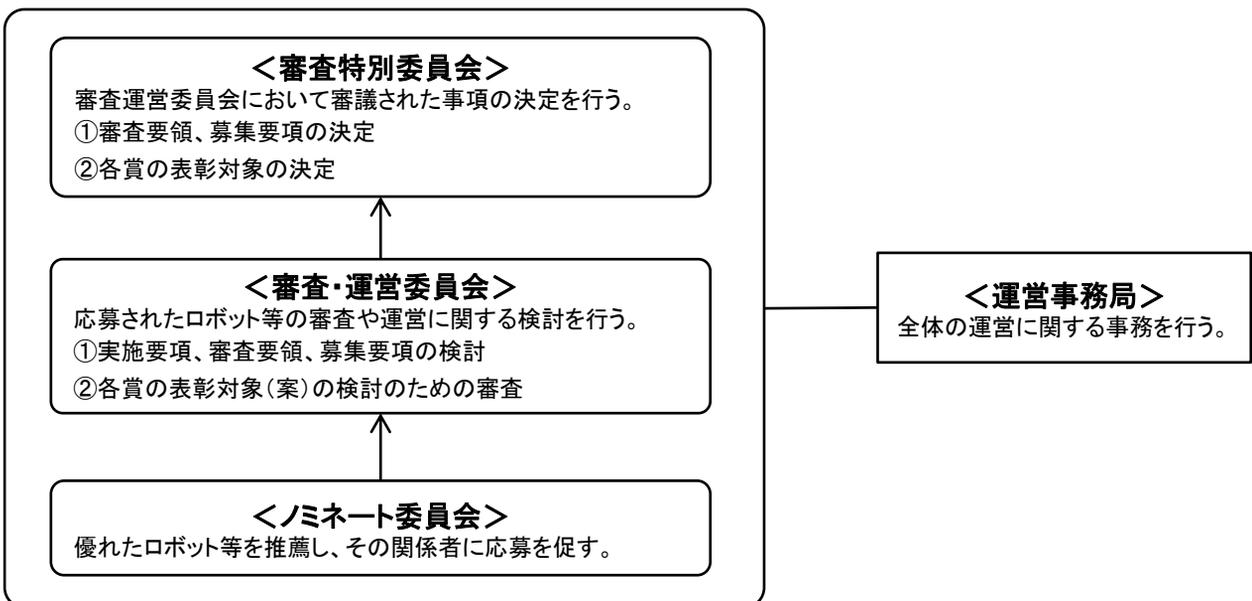
【募集期間】 2018年4月23日(月)～ 6月29日(金) (6/29 必着)

【応募数】 総数161件 (前回151件)

【分野一部門毎の応募件数】

	ものづくり分野	サービス分野	介護・医療分野	インフラ・災害対応・建設分野	農林水産業・食品産業分野	
ロボットビジネス・社会実装部門	9	15	7	9	7	47
ロボット応用システム部門	9	1	3	5	2	20
ロボット部門	15	7	8	12	4	46
要素技術部門	7	1	0	1	1	10
研究開発部門	5	2	5	3	8	23
人材育成部門	11	2	1	0	1	15
	56	28	24	30	23	161

【委員会】





「第8回ロボット大賞」委員会および運営報告

■ 第1回審査・運営委員会

4月12日(木) 15:00~17:00 場所:機械振興会館 6階6-65号室
内容:概要・日程案、実施要項、審査データ集計方法および審査手順等
審議



第1回審査・運営委員会

■ 第1回審査特別委員会

4月17日(火) 14:00~16:00 場所:経済産業省 別館2階 225会議室
内容:募集要項・実施要項等決定



第1回審査特別委員会

● 応募受付・・・4月23日(月)~6月29日(金)

■ ノミネート委員会

4月26日(木) 13:30~15:30 場所:機械振興会館 6階6-64号室
内容:推薦候補の検討

● 書類審査(審査・運営委員にて審査)・・・7月11日(水)~7月27日(金)

■ 第2回審査・運営委員会

8月8日(水) 14:00~18:30 場所:機械振興会館 6階6D-4号室
内容:現地調査候補の決定



ノミネート委員会

● 現地調査(審査・運営委員にてヒアリング調査)

8月21日(火)~ 9月12日(水)

■ 第3回審査・運営委員会

9月19日(水) 10:00~18:30 場所:機械振興会館 6階6-66号室
内容:応募者によるプレゼンテーション及び受賞位案件の選定



第3回審査・運営委員会

■ 第2回審査特別委員会

9月25日(火) 14:00~16:00 場所:経済産業省 別館2階 225会議室
内容:最終受賞ロボットの決定

● プレスリリース(受賞位の発表) 10月12日(金)

《表彰式および合同展示 場所:東京ビッグサイト 東ホール》

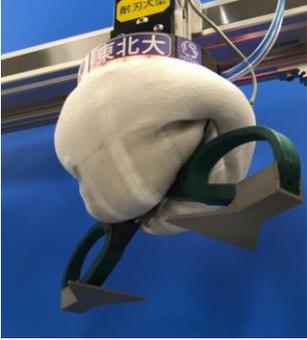
- ◆ 表彰式 10月17日(水) 10:10~11:30
- ◆ 受賞ロボット展示 10月17日(水)~19日(金)の3日間

■ 第4回審査・運営委員会

2019年2月12日(火) 14:30~16:30 場所:機械振興会館 6階6D-4号室
内容:事業総括および来年度の検討



受賞ロボット概要

<p>経済産業大臣賞／総務大臣賞</p>	<p>ZDT (ゼロダウンタイム) [ファナック株式会社]</p>
 <p>機構部の状態診断 プロセスの状態診断 予防保全 システムの状態診断</p>	<p>【概要】 工場稼働している産業用ロボットをネットワークで接続し、ロボットからの情報をサーバで集中管理することで、予防保全や故障予知を実現し、ダウンタイム（稼働停止時間）をゼロにするIoT技術。ロボットの機構部やシステムの状態を監視し、実際に故障を予知した場合には顧客に自動でメール通知したり、サービス員が電話連絡して注意を喚起することでダウンタイムを未然に防ぐことができる。</p> <p>【評価のポイント】 世界に先駆けてIoTシステムの事業化を実現し、製品のIoT化による新たな顧客価値の創出とともに、収益事業として成功させた事業実績を高く評価。本システムは製造業における生産性向上や保守要員不足といった課題解決に寄与するという点に加え、製品のネットワーク化によるビッグデータ解析を通じた新たなソリューションの提供という、情報通信技術を有効に活用したモデルを示したという観点での功績も大きい。</p>
<p>文部科学大臣賞</p>	<p>耐切削性式の柔剛切替グリップ機構「Omni-Gripper」 [国立大学法人 東北大学（田所・昆陽・多田隈 研究室）]</p>
	<p>【概要】 袋自体に柔剛切替機能を持たせるために、袋膜間に粉体を充填して三層構造とすることで、粉体充填量を少なくし、それにより高い柔軟性を特徴とする新たなグリップ機構。 従来の袋型グリップと比べて低い押付力でも対象物形状へのなじみ性が高く、さらに素材の工夫により耐切削性を保有するため鋭利な対象物でも袋が破けることなく把持することが可能。</p> <p>【評価のポイント】 瓦礫群が存在する災害等での現場ニーズに対応した技術となっており実用的である点に加え、グリップの機構だけでなく素材やグリップの製造面に至るまで総合的に検討がなされるなど独自性が高く、学内でのベンチャービジネス支援プログラムにも採択されるなど、今後の事業展開が期待される点を高く評価。</p>
<p>厚生労働大臣賞</p>	<p>ウェルワーク WW-1000 [トヨタ自動車株式会社／藤田医科大学（学校法人藤田学園）]</p>
	<p>【概要】 脳卒中などによる下肢麻痺者を対象とする、リハビリテーション支援ロボット。運動学習理論に基づいた様々な機能を一つのロボットシステムにインテグレーションした。患者の能力に合わせた練習難易度の調整機能や、患者自身に状態をフィードバックする機能等を豊富に備えているほか、簡単な着脱、操作パネルによる一括操作など、ユーザー視点で作り込まれた機能、構造によって臨床現場での使いやすさを実現している。</p> <p>【評価のポイント】 既に存在する技術をもとに、豊富な現場ニーズを最大限取り込むことを念頭に置いて開発が行われており、リハビリ現場に導入されることを第一に考えた社会実装の面を高く評価。また、機器の導入だけでなく導入時に併せて必要な研修やベストプラクティスの共有が行われており、結果として当初の目標を大幅に上回るスピードで導入が進むなど、事業性の面でも今後が期待される。</p>
<p>農林水産大臣賞</p>	<p>完全自動飛行のドローンによる「空からの精密農業」 [株式会社ナイルワークス]</p>
	<p>【概要】 農業用ドローンおよび生育診断クラウドサービスを稲作農家向けに提供する農業ビジネスで、ドローンを作物上空30～50cmの至近距離を飛行させることにより、薬剤の飛散量を大幅に抑えるだけでなく、作物の生育状態を1株ごとにリアルタイムで診断し、その診断結果に基づいて最適量の肥料・農薬を1株単位の精度で散布する新しい精密農業の実現に取り組む。</p> <p>【評価のポイント】 自動運転や自動散布、生育自動診断といった技術がドローンを活用したサービスとして実装されており、低空飛行ドローンによる新たな精密農業に取り組んでいるという先進性および独自性を高く評価。開発に当たっては農園と一体となって現場の課題を解決しながら進めており、米以外の農作物への応用の可能性があるなど、スマート農業の推進という観点からも今後が期待される。</p>

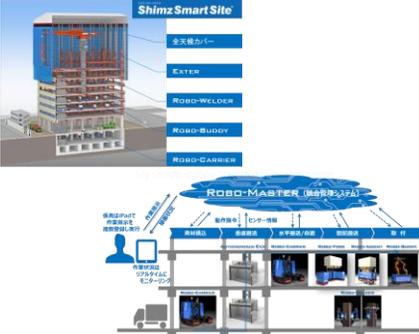


受賞ロボット概要

<p>国土交通大臣賞</p>	<p>ドローンを用いた火山噴火時の土石流予測システム [国立大学法人東北大学 フィールドロボティクス研究室/国際航業株式会社/株式会社イムズラボ/学校法人工学院大学 システムインテグレーション研究室]</p>
	<p>【概要】 ドローンと各種センシング技術を活用して、火山噴火時の立入制限区域内における地形情報、降灰厚、灰の種類、雨量に関する情報を遠隔から取得し、これらの情報を用いて現実に即した土石流発生予測を行うシミュレーションが可能となるシステムを開発。</p> <p>【評価のポイント】 これまで困難であった噴火直後の立入制限区域において観測を行う技術を確立したことにより、現状の土石流シミュレーションの精度を大幅に向上させることができる実用性の面に加え、個々の観測技術を一つのシステムに統合したパッケージ技術として完結させている独創性を高く評価。また、本技術は火山だけでなく大雨や火災など他の災害への展開も期待され、本技術が持つ社会的なインパクトは十分に大きい。</p>
<p>中小・ベンチャー企業賞 (中小企業庁長官賞)</p>	<p>ホタテ貝柱自動生剥きロボット「オートシェラー」を中核とする水産加工システム [株式会社ニッコー]</p>
	<p>【概要】 ホタテ貝の選別、投入、加工処理の3つの工程により構成され、1時間あたり5,760枚分の加工処理能力を有するロボットシステム。貝に付着した異物を高速ブラッシングで除去するとともに、貝表面を水蒸気で瞬間的に加熱処理して上貝を吸着パッドで開口した後、内臓全体を吸引ノズルで瞬時に吸引排出し、下貝に残った貝柱を独自開発したカッターで自動切断することで、生の貝柱だけを回収することが可能。</p> <p>【評価のポイント】 湧別漁業協同組合とともに現場の作業手順等を踏まえつつ開発を進めたことにより、個体差のあるホタテの加工自動化を実現することができ、ロボット技術適用の成功例といえる点を評価。また、日本の主要水産輸出品であるホタテ貝柱の安定供給と海外輸出の拡大にも寄与するとともに、北海道沿岸地域の基幹産業である水産加工業の持続的発展のモデルを示したことの功績は大きい。</p>
<p>日本機械工業連合会会長賞</p>	<p>自動搬送ロボット導入による料亭の接客サービスの効率化 [がんこフードサービス株式会社]</p>
	<p>【概要】 労働集約型サービス産業の1領域である料亭において、料理を配膳場から客席前まで運搬するサービスを代替する搬送ロボットを導入することで、サービスの提供プロセスにロボットを組み込んだ取組。ロボットを従業員と顧客が混在するサービス提供現場で運用し、運搬プロセスをロボットが担うことで、接客係は料理を配膳に取りに行く必要がなく、配膳係は接客係まで料理を届ける必要がなくなるという運用を実現。</p> <p>【評価のポイント】 業務運営上の品質管理面だけでなく、人間との衝突回避といった安全面を考慮しつつ、従業員・顧客・ロボットが同じサービス空間で共存するモデルを示したという社会実装の面を評価。また、ロボット導入前後の人流やロボットの動線などの各種データの計測を行い、その分析を通じて作業システムの改善やロボット稼働率の向上といった形で改良が進められており、今後の更なる展開が期待される。</p>
<p>日本機械工業連合会会長賞</p>	<p>小型ロボット MotomINI [株式会社安川電機]</p>
	<p>【概要】 可搬質量0.5Kg、最大リーチ350mmで本体質量が約7Kgという、小型軽量で卓上サイズの6軸垂直多関節ロボット。クレーンなどを使わずに人手で設置することができ、最小の設置面積でロボットシステムを構築することができるほか、装置の中に組み込むことも可能。</p> <p>【評価のポイント】 小型化にあたり、従来の産業用ロボットとは異なり内骨格構造を採用することで、モータやケーブル、減速機などの構成要素をコンパクトに集約することを可能にした設計上の工夫に加え、小型かつ軽量でありながら十分な手先位置精度と加減速を実現しており、これまでに産業用ロボットの導入が進んでいない様々な作業工程に導入されていくことが期待される点を評価。</p>



受賞ロボット概要

<p>優秀賞（サービス分野）</p>	<p>パワードウェア ATOUN MODEL Y 【株式会社ATOUN】</p>
	<p>【概要】 現場の荷物の持ち上げ・持ち下げの際に作業者の腰への負担を軽減する着るロボット。重量物を床付近から腰付近へ持ち上げるときにはアシスト機能、重量物を高い位置から床付近へ持ち下げるときにはブレーキ機能がそれぞれ自動的に適用されるほか、長時間着用しても快適さが維持できるよう、重量と通気性に配慮したデザインとしている。</p> <p>【評価のポイント】 現場ニーズを踏まえた開発が行われており、重量も価格も低く抑えられているというユーザー視点の面を評価。既に製品化され受注実績もあることに加え、現場の作業に合うよう制御面から容易にカスタマイズできるため、人手作業を必要とする様々な現場への普及が期待される。</p>
<p>優秀賞（インフラ・災害対応・建設分野）</p>	<p>コンクリート床仕上げロボット「T-iROBO® Slab Finisher」 【大成建設株式会社／国立大学法人筑波大学】</p>
	<p>【概要】 建設現場において床に打ち込んだコンクリートを平滑に仕上げる作業を省力化するロボット。こて1枚への加力人がよる作業と同程度の重量となるように設計し、こてが回転しながら床に接した状態で床の上を移動することで、人がこてを使用して床を仕上げる作業と同等の効果を得ることが可能。</p> <p>【評価のポイント】 バッテリー駆動により軽量化とともに騒音を減らし、建設現場への持ち込みや夜間での利用に配慮した設計が行われており、無線コントロールによる立位姿勢での操作及び事前走行範囲指定による自律運転が可能となるなど、建設現場のユーザーの使いやすさに徹した実用性の面を評価。</p>
<p>優秀賞（ビジネス・社会実装部門）</p>	<p>シミズ スマート サイト 【清水建設株式会社】</p>
	<p>【概要】 BIM（Building Information Modeling）を核とする情報化施工と、最先端技術を搭載した自律型ロボットから構成される次世代型の建築生産システム。溶接や内装仕上げ、資材運搬を行う自律型のロボットがBIM情報と連動し、人とロボットが協働した建設作業を実現する。</p> <p>【評価のポイント】 現場での導入を前提とした開発が行われており、工事への適用も進んでいる点に加え、他の作業への応用のほか、開発したロボットの他社への展開や研究機関等との共同開発を行っていく方向性など、今後の事業展開が期待される点を評価。</p>
<p>審査員特別賞</p>	<p>自動化基礎講座およびメカトロニクス技術者試験の推進 【特定非営利活動法人自動化推進協会】</p>
	<p>【概要】 ロボットや自動化に携わる技術者の実践的なスキル向上と、自動化技術の体系的な教育の確立を目的に、メカニズム・アクチュエータ・コントローラ・センサなどのメカトロニクス要素技術のほか、生産システムを支える各種手法・ノウハウに関する教育を行う「自動化基礎講座」とともに、実務的な能力を客観的に判定し証明する「メカトロニクス技術者試験」を実施。</p> <p>【評価のポイント】 若手の技術者に対する実務教育として、製造業の現場を熟知した実務家集団による解説のもと、理論と実践の両方をバランスよく養うという、企業ニーズに合致した教育の場を提供し続けてきた点に加え、これまで自動化基礎講座において20年間の累計で延べ約10,000人が受講するなど、長期にわたり積み重ねられてきた実績を評価。</p>



「第8回 ロボット大賞」表彰式

【日時】 2018年10月17日(水)10:10 ~11:30

【場所】 東京ビッグサイト 東6ホール、World Robot Summit メインステージ



【共催者(幹事)挨拶】日本機械工業連合会 大宮会長



【受賞者代表挨拶】ファナック 稲葉会長



【総評】審査特別委員会 川村委員長



経済産業大臣賞表彰の様子



【受賞者全体記念撮影】



合同展示

■受賞ロボット合同展示 10月17日(水)～19日(金)10:00～17:00



ファナック株式会社
ZDT(ゼロダウンタイム)



国立大学法人東北大学(田所・昆陽・多田 研究室)
耐切削性式の柔剛切替グリッパ機構「Omni-Gripper」



トヨタ自動車株式会社／藤田医科大学(学校法人藤田学園)
ウェルウォーク WW-1000



株式会社ATOUN
パワードウェア ATOUN MODEL Y



大成建設株式会社／国立大学法人筑波大学
コンクリート床仕上げロボット「i-ROBO® Slab Finisher」



合同展示風景



World Robot Summit

- 【名 称】 World Robot Summit 2018(東京大会)
【主 催】 経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
【日 時】 2018年10月17日(水)～21日(日) 10:00～17:00
【会 場】 東京ビッグサイト 東6・7・8ホール (展示会を東6ホール、競技会を東7・8ホールにて開催)
【来場者数】 76,374名 ※同時開催展「Japan Robot Week 2018」を含めた来場者数

【同時開催イベント】



「第8回 ロボット大賞」

共催: 経済産業省(幹事)、日本機械工業連合会(幹事)
総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

内容: 受賞式と受賞ロボットの合同展示

Japan Robot Week 2018

主催: 一般社団法人 日本ロボット工業会、日刊工業新聞社

内容: サービスロボットやロボット関連技術の専門展示会



【ロボット大賞表彰式】



【メインステージでの講演】



【展示風景】



【競技風景】



東京ビッグサイト 東6ホール

東6ホール

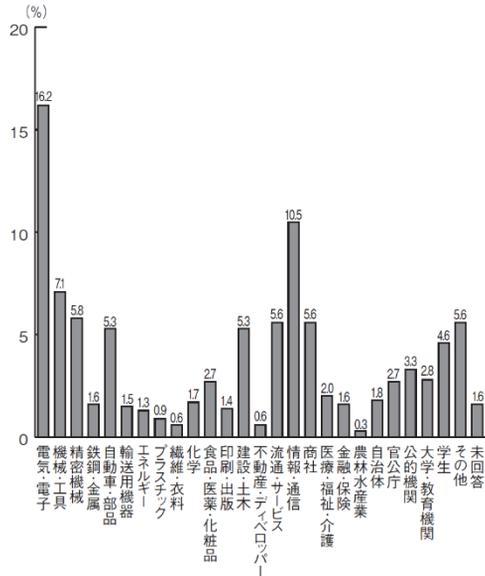




■調査対象：43,693名

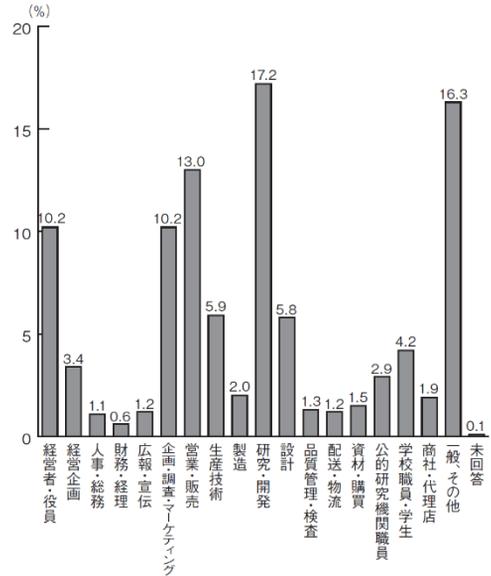
Q1.

あなたの所属団体・企業の業種は何ですか。



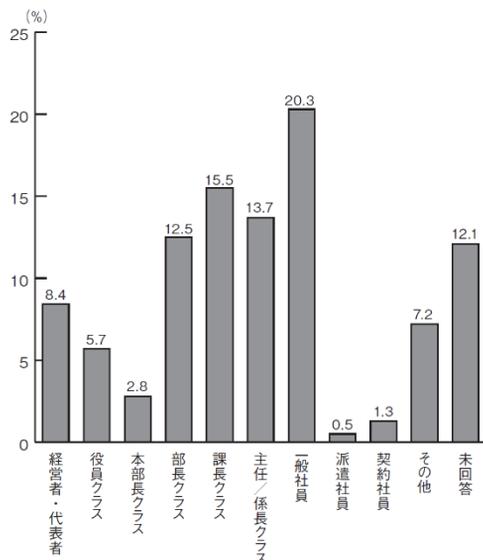
Q2.

あなたの職種は何ですか。



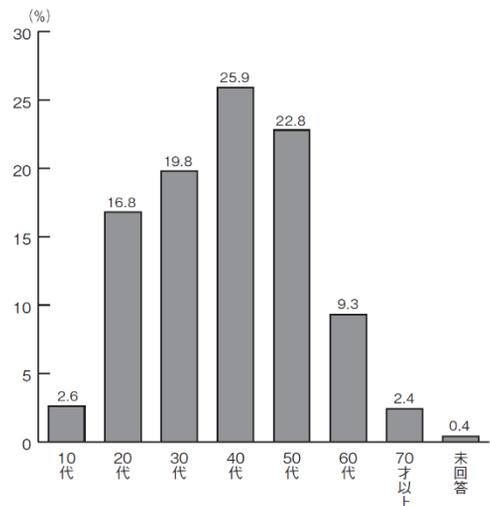
Q3.

あなたの役職は何ですか。



Q4.

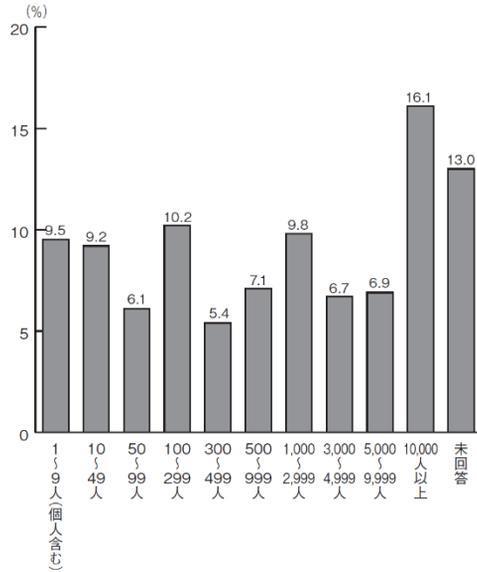
あなたの年齢は何歳ですか。





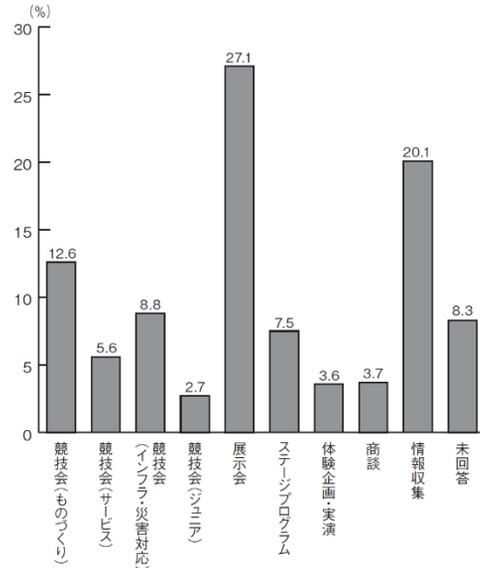
Q5.

あなたの会社の従業員数は何人ですか。



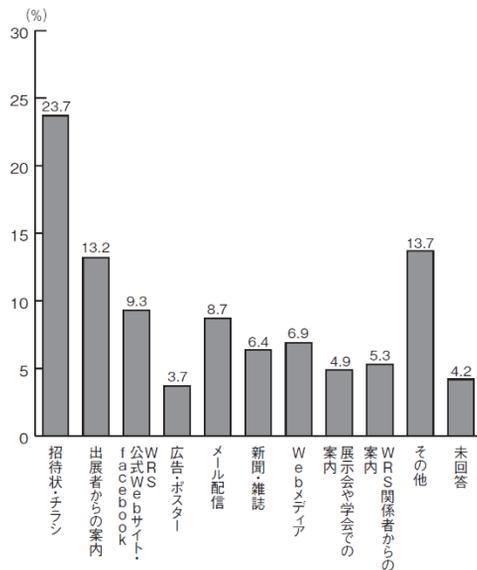
Q6.

来場目的は何ですか。



Q7.

本展を何で知りましたか。





「第8回 ロボット大賞」合同展示 来場者アンケート

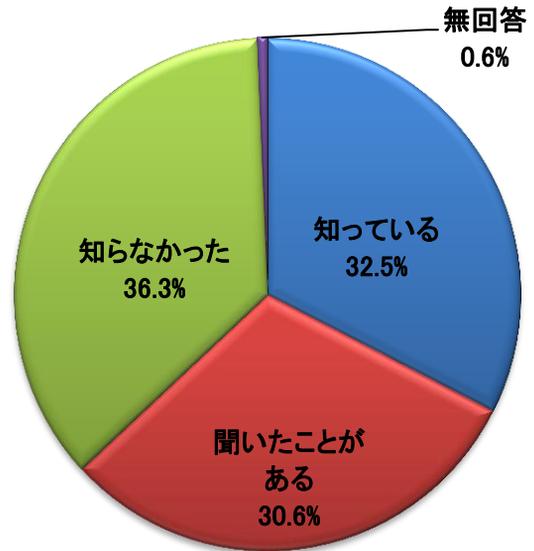
■ 来場者アンケート

期間中、合同展示会場内にて来場者アンケートを実施した。

※回答数:全160件

《回答結果》

A. ロボット大賞は知っていましたか？



B. 合同展示の中で、一番印象に残った受賞ロボットはどれですか？

【ロボット名】	件数
経済産業大臣賞／総務大臣賞「ZDT(ゼロダウンタイム)」(ファナック)	10
文部科学大臣賞「耐切創性式の柔剛切替グリッパ機構『Omni-Gripper』」(東北大学)	26
厚生労働大臣賞「ウェルウォーク WW-1000」(トヨタ/藤田医科大学)	14
農林水産大臣賞「完全自動飛行のドローンによる『空からの精密農業』」(ナイルワークス)	24
国土交通大臣賞「ドローンを用いた火山噴火時の土石流予測システム」(東北大学他)	14
中小・ベンチャー企業賞「ホタテ貝柱自動生剥きロボット『オートシェラー』を中核とする水産加工システム」(ニッコー)	10
日本機械工業連合会会長賞「自動搬送ロボット導入による料亭の接客サービスの効率化」(がんこフードサービス)	5
日本機械工業連合会会長賞「小型ロボット MotoMINI」(安川電機)	18
優秀賞(サービス分野)「パワードウェア ATOUN MODEL Y」(ATOUN)	9
優秀賞(インフラ・災害対応・建設分野)「コンクリート床仕上げロボット『T-iROBO® Slab Finisher』」(大成建設／筑波大学)	14
優秀賞(ビジネス・社会実装部門)「シミズ スマート サイト」(清水建設)	11
審査員特別賞「自動化基礎講座およびメカトロニクス技術者試験の推進」(自動化推進協会)	4
無回答	1
合計	160



「第8回 ロボット大賞」合同展示 来場者アンケート

B-2. 合同展示の中で、一番印象に残った受賞ロボットはどれですか？

■経済産業大臣賞/総務大臣賞「ZDT(ゼロダウンタイム)」(ファナック)

- ・人の負担に配慮している点
- ・工場を止めないようにする点

■文部科学大臣賞「耐切創性式の柔剛切替グリッパ機構『Omni-Gripper』」(東北大学)

- ・柔剛の発想がロボットと今まで結びついていなかった
- ・ハイクオリティな技術
- ・色々な分野で役に立つ

■厚生労働大臣賞「ウェルウォーク WW-1000」(トヨタ/藤田医科大学)

- ・実際に歩行可能な状態に至るまでのサポート体制や、技術の応用の発想が印象に残りました
- ・リハビリに使用することで、リハビリをする側させる側両方に負担軽減できる

■農林水産大臣賞「完全自動飛行のドローンによる『空からの精密農業』」(ナイルワークス)

- ・人手不足の農業の解決になる
- ・省力化・効率化できる。
- ・実現可能性に期待

■中小・ベンチャー企業賞(中小企業庁長官賞)

「ホタテ貝柱自動生剥きロボット『オートシェラー』を中核とする水産加工システム」(ニッコー)

- ・貝柱はなかなかきれいに剥けないから(経験上)

■日本機械工業連合会会長賞「自動搬送ロボット導入による料亭の接客サービスの効率化」(がんこフードサービス)

- ・何をやるロボットかはっきりしていて良い

■日本機械工業連合会会長賞「小型ロボット MotoMINI」(安川電機)

- ・非常にコンパクトで台数を増やして使用する点
- ・小型のデザイン
- ・非常に小さいところ

■優秀賞(サービス分野)「パワードウェア ATOUN MODEL Y」(ATOUN)

- ・デザインが良い、装着が楽なのが素晴らしい
- ・重量が軽そうに見えたので

■優秀賞(インフラ・災害対応・建設分野)「コンクリート床仕上げロボット『T-iROBO® Slab Finisher』」(大成建設/筑波大学)

- ・省力化、作業分担、人材不足
- ・建設業界で仕事しているが、今まで見たことのない画期的なものだった
- ・いつかはできる技術だと思っていたから
- ・移動の滑らかさ

■優秀賞(ビジネス・社会実装部門)「シミズ スマート サイト」(清水建設)

- ・重量物を自走で取り出し運ぶこと
- ・建設現場の作業員不足対策が見込める
- ・パッケージ化されているところ

■審査員特別賞「自動化基礎講座およびメカトロニクス技術者試験の推進」(自動化推進協会)

- ・教育の重要性
- ・自動化していない企業の頼りになる存在だと思う



「第8回 ロボット大賞」合同展示 来場者アンケート

C. ご自身の職場や生活の中で、どのようなロボットがあれば、導入・使用したいと思いますか？

FA	人手作業の代替、人の代わりに荷物の搬送から仕出し
アミューズメント	ディーラーの役割を果たすロボット
屋内移動ロボット	道案内や人の誘導
介護・医療	見守りロボット、人の負担を極力軽減できるロボット、 イベントなど長蛇の列になった時でもなしや誘導をしてくれるロボット 老人(男性)の話し相手(老人ホーム等で男性は自らすすんで話そうとする人が少ないから) VRなどと組み合わせてウォーキングの疑似体験ができるロボット
家事	部屋の片付けを手伝うロボット
製造・機械	双腕ロボット、協働ロボット、AI 機械のユニット単位での組立ロボット、飛行して巡回するロボット・ドローン
金属加工	コンパクトな産業用ロボットでライン搬送
研究・開発	海中浮遊物の姿勢・形によらないグラスピング
建設	様々な箇所の仕上げをしてくれるロボット、補助ロボット 原発プラントなどの処理、建設施工管理を人間と同様に実施するロボット 新技術等による生産性向上に期待、搬送ロボット、住宅建設ロボット
自動車	自動車の中でドライバーを助けてくれる対等なロボット、 小さくて安くて早い協働ロボット
自動搬送	自動搬送ロボット
重量物の運搬	重量物運搬時の腰への負担軽減
生活	コミュニケーション 害虫駆除 買い物補助 造園サポートロボット 筋力トレーニング支援 雑草取りロボット
清掃	水回りの清掃ロボット 掃除ロボット
鉄道・航空	鉄道車両メンテナンス コンテナを自動搬送
農業	省力化、効率化につながるロボット
物流	アシストスーツ、無人ピッキング
溶接業	作業負担の軽減

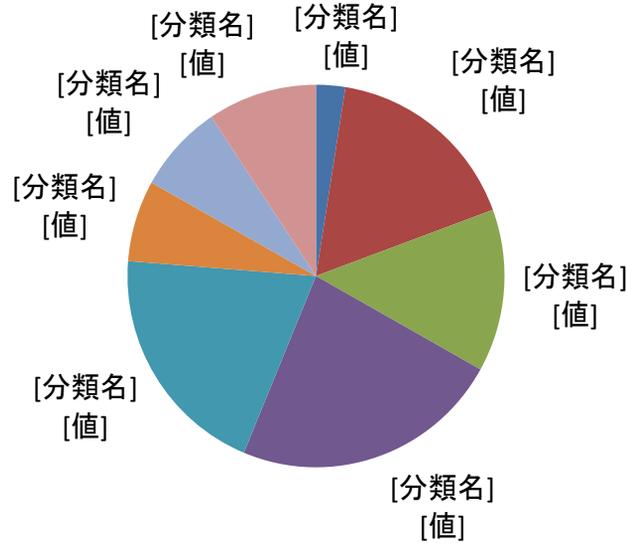


「第8回 ロボット大賞」合同展示 来場者アンケート

【年代別】

	件数	%	(前回結果)
10代	4	2.5%	8.8%
20代	27	16.9%	19.6%
30代	22	13.8%	12.9%
40代	37	23.1%	22.2%
50代	32	20.0%	16.8%
60代	11	6.9%	7.2%
70代以上	12	7.5%	4.4%
無回答	15	9.4%	8.2%

年代別



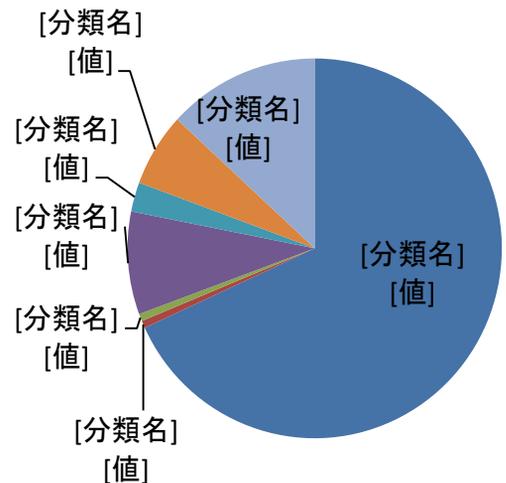
【職種】

	件数	%	(前回結果)
会社員	109	68.1%	62.4%
アルバイト	1	0.6%	0.0%
主婦	1	0.6%	0.3%
学生	14	8.8%	21.1%
一般	4	2.5%	4.6%
その他	10	6.3%	5.2%
無回答	21	13.1%	6.4%

【業種】

	件数	%	(前回結果)
電気・電子	19	11.9%	16.8%
機械・工具	9	5.6%	17.0%
精密機械	6	3.8%	
鉄鋼・金属	8	5.0%	4.1%
自動車・部品	14	8.8%	7.0%
輸送用機器	3	1.9%	0.5%
エネルギー	0	0.0%	1.0%
プラスチック	1	0.6%	1.5%
繊維・衣料	0	0.0%	0.5%
化学	4	2.5%	2.8%
食品・医薬・化粧品	1	0.6%	0.3%
印刷・出版	2	1.3%	0.8%
建設・土木	23	14.4%	2.6%
不動産・ディベロッパー	1	0.6%	
流通・サービス	10	6.3%	3.1%
情報・通信	4	2.5%	5.7%
商社	6	3.8%	4.4%
医療・福祉・介護	1	0.6%	2.6%
金融・保険	0	0.0%	
農林水産業	1	0.6%	
自治体	0	0.0%	
官公庁	2	1.3%	4.9%
公的機関	3	1.9%	
大学・教育機関	5	3.1%	
学生	6	3.8%	14.2%
その他	11	6.9%	
無回答	20	12.5%	10.3%

職業別





「第8回 ロボット大賞」合同展示 来場者アンケート

D. その他、「ロボット大賞」に関してのご意見・ご要望などをお聞かせください。

・告知を早めにしてほしい
・宣伝を増やすと興味深い内容なので人が集まると思う
・もっと知名度を上げたほうがいい
・一般へのPRが不足していると思う
・もっと「ロボット」っぽいプロジェクトが受賞すると嬉しい
・是非引き続き実施してほしい
・日本がこの分野でTOPに立てる様、業界活性化を期待
・基本基礎となるようなものを大賞にしてほしい
・本年もレベルの高い賞だったと思う
・建設現場は人手不足なので、ロボットを推進するように多くの賞をあげてほしい
・各分野の良い技術がわかり、手っ取り早くて良い
・初めてみたので今後に注目したい
・様々な7分野で評価されているのは良いことだと思う
・実機が見られて、具体的な大きさや駆動音など聞けて良い
・(受賞ロボットの)販売時期を知りたい
・それぞれの受賞ロボットに明確な特徴があり、 また一方で次なる発展も感じさせるゆえ、 拝見していて知見が広がるとともにワクワクさせられました
・とてもおもしろかった



「第8回 ロボット大賞」合同展示 応募者アンケート

■ 応募者アンケート

回答数: 全161件

質問①: 今回の応募に際し、「ロボット大賞」に対して期待することは何でしょうか。
最も当てはまるものに○をおつけください(複数回答可)。

	件数	(前回結果)
1. ユーザーへのPR	116	98
2. マスコミ(テレビ・新聞等)に取り上げられること	97	61
3. 「第8回 ロボット大賞」をはじめとする各賞受賞によるロボットの認知度向上	124	95
4. 各種展示会での合同展示による広報効果	69	41
5. 経済産業省等の公共機関への知名度上昇	83	64
6. その他	15	21

6. その他回答結果

・協力企業の獲得
・資金調達に向けた広報効果
・商品化検討を加速するため
・ブランディング活動の一環
・ロボット・セラピーの普及
・福祉業界や職員の意識改革の一助
・産業用ロボットの普及 SI人材育成のモデルケース紹介
・農業生産の現状を広く知っていただくため
・ロボットの発展には要素技術が必要不可欠であることを認知してもらう為
・完全自動ドローン技術の知名度向上
・産業分野の効率化と持続可能社会への貢献のため
・産学官連携におけるロボット産業の発展
・自社開発製品の社会貢献度の確認

質問②: 今後の「ロボット大賞」のあり方などについてご意見をお聞かせください。

PR・認知度向上

- ・まだまだ一般の人に認知されていない部分もあると思いますので、広く認知され賞の価値が高まっていくと良い。
- ・以前からロボットビジネスに携わっていましたが、このような大賞があることを初めて知りました。
- ・国際社会へ向けた情報の発信
- ・ロボット大賞を通じて、日本がもつ技術や商品を、一般お客様に広く知らしめて欲しい。
- ・「ロボット」の定義を広く見られていて、様々な分野に可能性を与える大変意義のある開催主旨だと思います。ただ、まだ一部の専門的な世界での奨励制度に思われているのではないかと思います。
- ・世間一般に広く関心を高め、ロボットやモノづくり、技術が身近に感じられる訴求も可能なのではないかと期待。
- ・ロボットの社会実装への認知度向上に向け、本取組を継続いただくとともに、より一層の広報を願います。
- ・ロボット大賞を広くアピールしていただき各分野でのロボットの重要性・価値が認知されるようお願いいたします。
- ・生産性向上や労働環境の改善は、社会的ニーズとなっている。
ロボットの活用が果たす役割は重要で、一般への認知向上を図る上で本大賞は非常に有用であると言えるのではないだろうか。
- ・受賞作品の実用化された状態をPRして欲しい
- ・弊社では海外への情報発信が課題となっており、ロボット大賞を通じてより世界にアピールしやすくなるとよいと思います。
- ・ロボット大賞は素晴らしい取組であると感じるが、一般に充分認知されていないと感じる。今後いっそう認知が広がることを期待しております。
- ・ただ審査に動画を投稿するだけでなく、Youtubeなどで動画サイトを設けて、広く一般へ公開して、日本の最新のロボット技術のアピールの場とするのはいかがでしょうか。



「第8回 ロボット大賞」合同展示 応募者アンケート

質問②： 今後の「ロボット大賞」のあり方などについてご意見をお聞かせください。

応募対象

- ・介護・医療分野の一括りではなく、市場の拡大に合わせて、ライフサイエンス分野等のより細分化されたカテゴリーを設けて頂けると、さらに多くのロボット・アプリケーションの応募が見込まれるのではないかと存じます。
- ・ロボットはソフトウェアも重要ですので、幅広いロボットに適用が可能なソフトウェアを対象とした「ソフトウェア部門」があってもよいかと思えます。
- ・これから大変になるであろう介護や、災害に特化した部門を設置するなど、ある程度方向付けをした募集方式もありかと思う。
- ・教育用ロボットに広がることを期待します。
- ・前回の表彰においては、各賞と部門・分野の切り分けが明確にされておらず、各賞と部門・分野別の選考基準が明確でなかった様に見える。
- ・研究開発部門に社会実装性を求めること、ビジネス・社会実装部門の研究内容の新規性を求めることには疑問があり、部門・分野にふさわしい選考基準を事前に示していただきたい。
- ・個人や学生も積極的に参加できる部門を設置することで、偉才を発掘し研究機関や企業と結びつけることでロボット産業が活性化することを期待したいと思います。
- ・応募の間口が広いので応募しやすいと思いました。もはや未来のロボット化は自明ですので、今後も長く続けて頂くことで益々「ロボット大賞」の価値が上がると感じています。よろしくお願いします。
- ・中小企業へのロボット導入に注力している ロボットシステムインテグレータにも着目してもらえると嬉しいです。
- ・引き続き、ロボットの利活用(社会実装)についても表彰の対象としていただけると幸甚です。

表彰位

- ・実際に導入しているところを見ていただき決める賞も設けていただきたいです。
- ・ロボットによる効率化だけでなく、使いこなすことのカッコ良さを国民に届けてほしい。
また、ロボットによるリハビリも高齢者に効果があることを知らせてほしい。
- ・産業用、家庭用、サービスのロボットをまとめているため、評価の基準がわかりづらく、各分野を独立させた賞にしてはいかがでしょうか。
- ・IoTには欠かせないロボットの開発および発展にはハード、ソフト、システム、システムインテグレーター等欠かす事の出来ない物があります。
しかしそのハードを構成し、供給する要素技術、素材も必要不可欠であります。
こうしたものが揃って日本の技術を作り上げて行く所もフォーカスして欲しいです。
- ・部門や分野など、ロボットの展開に合わせて対象も拡大していますが、
表彰として広げすぎるとかえってどんな賞なのかがわかりづらくなる面もあると思います。
現状程度の表彰の範囲を維持しつつ、カテゴライズを時代に合わせていくのが良いのではないかと考えます。

評価

- ・一般的な消費者へ販売するようなロボット、話題性や社会的に意義のあるロボットも評価いただきたく思います。
- ・少子高齢化が進む中で、ロボットがもっと身近なものになるよう、より多くの方々の目に触れる機会を増やすことにもなり、大変意義のあることだと思います。
- ・現状さまざまな状況下で人的作業が主となる職場、現場での、働き方改革、労働作業支援に即したロボット技術の情報発信の場としてあってほしい。
- ・ロボット大賞は先進的なロボット技術の認知度を高め、ニーズや分野を超えた技術の収集が行える良い機会であって欲しいと考えております。
- ・ロボットのシステム価格を記入する欄を設けて頂き対象作業に見合う製品になっているかも判断して頂きたいです。

継続希望

- ・地方のベンチャー企業にも励みになる事業だと思えます。
- ・ロボット研究者にとって、大きな目標となっています。ぜひ続けていただければと希望しています。
- ・ロボットを開発しても、開発期間中に世の中の情勢が変わり、使用者のニーズにマッチしなくなり、「使えないロボット」として扱われることがある。そのような不一致を防ぐためにも、メーカーやロボットの認知度向上だけでなく、開発側とユーザー側をつなぐ架け橋となって頂ければ良いと思います。
- ・日本のロボット産業普及の大切な取り組みであると感じております。
- ・現状を継続することが重要と考えております。
- ・今後とも「ロボット大賞」を引き続き注目し、積極的に参加と協力もできたらと考えています。
- ・今後も引き続き、ロボット技術を広く拡散する為に、ロボット大賞の応募を積極的に行って頂きたい。



「第8回 ロボット大賞」合同展示 応募者アンケート

質問②： 今後の「ロボット大賞」のあり方などについてご意見をお聞かせください。

「ロボット大賞」の地位向上

- ・受賞テーマが商業的にも成功を取めることが、将来的に繋がっていくためにも重要かと考えます。
- ・福祉業界やそこで働く職員は、ロボットの受け入れに少なからず抵抗を感じるのが現状です。
思いやりや感情が重視される福祉とロボットの融合がロボット大賞で取り上げられることにより、福祉業界や職員の意識改革の一助となることを期待しております。
- ・システムインテグレータの魅力をアピールしていただき、人材育成を促進したい。
- ・ロボットに関する新しい技術を広く社会に向けて発表出来る場であってほしい。
- ・世界でNo.1が目指せるロボット製品の要素技術を研究開発段階でも評価し、早期製品化への機会作りとなる運用を期待いたします。
- ・ロボット利活用社会の推進に伴い、大企業だけでなく、日本各地の少量多品種を扱う「ものづくり中小企業」へのロボット導入のフックとなるような存在になっていただきたいと思う
- ・中小企業へのロボット導入促進に注力する、中小のロボットシステムインテグレータが目目され認知度が上がるような賞になってほしい
- ・新技術が社会貢献につながることを訴求できる素敵な機会だと思います。社会人や研究者のみならず、未来を担う学生や小さな子供にも楽しさが伝わり、産業が発展していくことを期待しております。
- ・さまざまなロボットが社会に溶け込み、普段の生活の中でロボットがあるのが当たり前の社会になっていく中で、「世の中はどのようなものを求めているのか」、という指針を広く知ってもらえるようなコンテストであれば、と思います。

その他 意見・感想

- ・海外へのアピール、または海外からのエントリーなど世界に発信していけたらいいのではないのでしょうか。
- ・世界のロボット技術をリードできる将来有望なロボット関連技術を発掘し、世間に知らしめることによって日本のロボット技術の活性化の起爆剤となるような賞を目指して欲しい。
- ・さまざまな種類のロボットが増えてきていますが、人が幸せになるロボットとその業界の発展に寄与していただければと存じます。
- ・ロボット大賞という当然ロボット完成品に目がいくと思いますが、実際にそのロボットをどのようにして実現させているか？という部分にもフォーカスしていくことを期待します。
- ・ロボット大賞受賞対象の内容・分野変遷からくる、技術発展史の観点からの未来に向けて如何にして技術が発展しうるかの予想立てへの活用。(N数も10回に近づいていることですし、決して不可能ではないと考えています。)
- ・賞自体がいろいろな方に認知されており、応募を勧められました。初めての応募になりますが、よろしく願いいたします。
- ・AIやロボットへの期待度が高まる産業界において、新たな世界をけん引するきっかけとなって頂けるものと信頼致しております。
- ・単にものづくりに関する賞というアプローチだけでなく、ロボット・システムインテグレーションなどの高度な技術および教育に関する基準、認証制度を確立して、我が国から国際的に活躍できる技術者の輩出へのきっかけとなる多面的な検討をお願いします。
- ・ロボットの利便性に対する評価に加え、「人々の心を動かす」という魅力に対する評価があれば尚よいかと存じます。
- ・取組みへの表彰だけに止まらず、積極的な産学官連携の促進を図り、日本を代表するソリューションを世界市場で競わせるプラットフォームと化して頂きたいと存じます。
- ・社会実装されていくべきロボット関連企業の認知度が上がり、投資家や、ビジネスパートナー、顧客への接点が大きくなり、各社が発展すること自体がロボット産業の発展に寄与するという点で、ロボット大賞の意義が大きくなると思います。
- ・これからのロボット業界の発展を支えるような賞であってほしいです
- ・今後も幅広いロボットを対象としたコンテストであってほしいと考えます。
- ・日本の精巧なものづくりを国内で評価することにより、同領域の活性化につながる。
- ・デザインを始めとした外見だけでなく、機能、スペックを精査頂き、社会実装され、人々の役に立つロボットを選んでいただきたいと存じます。



制作物

■募集用チラシ・ポスター

募集用チラシ(A4カラー、13,000部)、ポスター(A1カラー、300部)を作成し、関係企業・団体へ配布した。



■公式ガイドブック

受賞ロボットの特徴をまとめたガイドブック(A4カラー、4,500部)を作成し、展示会場で配布した。



■展示会招待状

World Robot Summit および同時開催展を含めたJapan Robot Weekの招待状を約70万枚作成し、関係企業、団体等へ案内した。



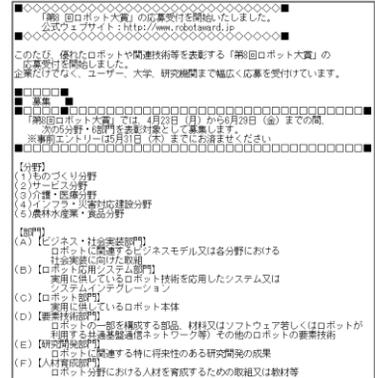


広報(募集時)

■ 募集に際しての告知

①メール配信

- ・協力・関係団体の会員
- ・国際ロボット展 出展者および展示会来場者(約17万件) 他



メール配信文(一部抜粋)

②広告とパナー

日刊工業新聞 5段

パナー広告

Japan Robot Week Webサイト

③Web/新聞

ロボット情報Webマガジン、建通新聞、
 経済産業省、総務省、農林水産省、
 国土交通省、日本機械工業連合会、
 日刊工業新聞 他

YAHOO! ニュース掲載



広報(受賞式、合同展示等の告知) および報道

■ 受賞式、展示会開催に際しての告知

①メール配信

- ・協力・関係団体の会員
- ・国際ロボット展他 展示会来場者(約17万件)
- ・プレス関係者(約2,000名)

②プレスリリース

各メディア約300件へ配信

NEWS RELEASE
平成30年10月13日

2018 洗淨総合展
Japan Robot Week 2018
モノづくりマツダ展 Japan 2018
先端材料技術展 2018
東京ビッグサイトにて4つの専門展を開催！

～各分野で技術の最新動向や最新技術を一瞥に実現～

【洗淨総合展】10月17日(水)～10月19日(金)の3日間、東京ビッグサイトに於いて2018洗淨総合展(Japan Robot Week 2018)、「モノづくりマツダ展 Japan 2018」、「ISAPPE Japan 先端材料技術展 2018」が開催されます。

【先端材料技術展 2018】最先端の技術・高機能な素材に、30 年以上にわたって蓄積する技術や最先端の産業向け材料に関する展示です。この展、開催 20 周年を記念し、1970年代の第一人者である佐野 彰 先生のご逝去を悼み、先駆者の精神を継承し、後進を育成する意義を込めて開催いたします。自由、創造性、挑戦に多くの数々の製品や技術革新を生み出しています。

【Japan Robot Week 2018】産業ロボット展に隣接するロボット・ロボット関連機器の展示です。今年からはモノづくりマツダ展との協働で、ロボット・ロボット関連機器の展示に加え、モノづくりマツダ展の「モノづくりマツダ展」も開催いたします。経済産業省-NEDO 主催の World Robot Summit 2018 の開催期間中、「第8回ロボット大賞」授賞式も開催いたします。

【モノづくりマツダ展 Japan 2018】「モノづくりマツダ展」の開催エリアにて、13日(水)【先端材料・複合材料】【産業用ロボット】【産業用・共同製造】の3つの分野を軸に開催いたします。最先端のモノづくりの最新動向を、最先端の技術と最先端のモノづくりの現場から、最先端の分野で、最先端の製品を展示いたします。また、Industry 4.0 / 生産現場のデジタル化の最新動向も、最先端の分野で展示いたします。

ISAPPE Japan 先端材料技術展 2018は、産学官連携の推進を目的とし、最先端の先端材料とその利用技術の最新動向を、最先端の技術と最先端のモノづくりの現場から、最先端の分野で、最先端の製品を展示いたします。また、Industry 4.0 / 生産現場のデジタル化の最新動向も、最先端の分野で展示いたします。

【Japan Robot Week 2018】開催概要

■開催日時：10月17日(水)～10月19日(金) 10:00～17:00

■会場：東京ビッグサイト 東5ホール

■主催：一般社団法人日本ロボット工業連合会、日本工業振興協会

■入場料：1,000円(学生・高齢者、身体障害者等・中学生以下は無料)

■開催場所：179 社・団体 286 企業 30 企業/メーカー等

■公式WEBサイト：<http://jrw.nikkan.co.jp/web/robot/>

※4 回目を迎える「Japan Robot Week 2018」は、ロボット・ロボットを中心とする展示会として2012年から開催されています。今年からはモノづくりマツダ展との協働で、ロボット・ロボット関連機器の展示に加え、モノづくりマツダ展の「モノづくりマツダ展」も開催いたします。経済産業省-NEDO 主催の World Robot Summit 2018 の開催期間中、「第8回ロボット大賞」授賞式も開催いたします。

第8回ロボット大賞授賞式は開催！

第8回ロボット大賞授賞式
日時：10月17日(水) 10:10～11:30
会場：東5ホール内 W5 インフォスペース (特別公開)

【授賞式】経済産業省(授賞)、一般社団法人日本機械工業連合会(授賞)
【司会】佐野 彰先生、佐野 彰先生、藤田 隆先生、宮内 正徳先生
【授賞式】授賞式司会、最先端の技術と最先端のモノづくりの現場から、最先端の分野で、最先端の製品を展示いたします。

会場では、授賞式の会場も開催いたします。
【授賞式】授賞式は、<http://www.robotaward.jp/>

授賞式・授賞式

【授賞式】授賞式は、<http://www.robotaward.jp/>

【授賞式】授賞式は、<http://www.robotaward.jp/>

③Web/新聞での報道

ロボスタ、ものづくりニュース、ロボットダイジェスト、大学ジャーナル、日刊工業新聞 他

ロボスタ | 【結果発表】 GROOVE X9「LOVOT」欲しい?欲しい?ない?

第8回ロボット大賞が発表! 大臣賞ダブル受賞はファナックの「ZDT」

2018年10月12日 By ロボスタ編集部

THE 8TH ROBOT AWARD
第8回 ロボット大賞

今年で第8回目の開催となった「ロボット大賞」の各賞が発表された。

ロボット大賞は、ロボット技術の発展やロボット活用を促すため、特に優れたロボット等を表彰する事業であり、平成18年に開始されました。

ロボスタ

大学ジャーナル
UNIVERSITY JOURNAL ONLINE

トピックス 研究成果 地方創生 産学

HOME > 研究成果 2018年10月15日

第8回ロボット大賞発表、東北大学、藤田医科大学、筑波大学など受賞

大学ジャーナルオンライン編集部

● ロボット 受賞 経済産業省 ● 東北大学 筑波大学 藤田医科大学

経済産業省と日本機械工業連合会などが主催する第8回ロボット大賞で、大学から文部科学大臣賞、国土交通大臣賞に東北大学、厚生労働大臣賞に藤田医科大学(※1)、優秀賞(インフラ・災害対応・建設分野)に筑波大学が選ばれた。表彰式は17日、東京都江東区有明の東京ビッグサイトで行われる。

経産省によると、ロボット大賞はロボット技術の発展を促すため、優れたロボットを開発した企業や団体を表彰する制度で、2006年にスタートして今回が8回目となる。今回は全国の企業、大学などから161件の応募があり、審査特別委員会の選考で各賞を決めた。

文部科学大臣賞に選ばれた東北大学田所、昆陽、多田研究室は、袋構造を三重にし、高柔軟性を持つグリップ機構(※2)を開発した。国土交通大臣賞の東北大学フィールドロボティクス研究室は、ドローンとセンシング技術を活用して火山噴火時に立ち入り制限区域内の地形、降灰厚などの情報を遠隔から取得、土石流発生を予測するシミ

大学ジャーナル



開催中の報道

①TV ※World Robot Summit 全体の報道含む

- TBS「ゴゴスマ～GOGO! Smile!～」
- TBS「Nスタ」
- TBS「あさチャン!」
- テレビ朝日「ワイド! スクランブル」
- テレビ朝日「報道ステーション」
- テレビ東京「ゆうがたサテライト」
- テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」
- フジテレビ「とくダネ」
- 日本テレビ「news every.」
- NHK-WORLD「newslines」ほか



news every. (日本テレビ)

②新聞、雑誌／Web・電子メディア ※World Robot Summit 全体の報道含む

日刊工業新聞、日刊建設工業新聞、新聞之新聞、
薬事日報、電波新聞、科学新聞、電波タイムズ、
日本医科器械新聞、日刊放送ジャーナル ほか

産経ニュース、ITmedia、livedoorニュース、ロボスタ、
日刊工業新聞 電子版、LINE NEWS(ラインニュース)、
gooニュース、オートメーション新聞ウェブ版、
dメニューニュース、山陽新聞digital、
MONOist(モノイスト)、msnエンタメ、ザテレビジョン、
グノシー、mixiニュース、楽天WOMAN、 ほか



日刊工業新聞(10月18日付)



オートメーション新聞ウェブ版

以上